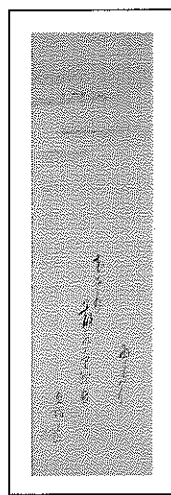
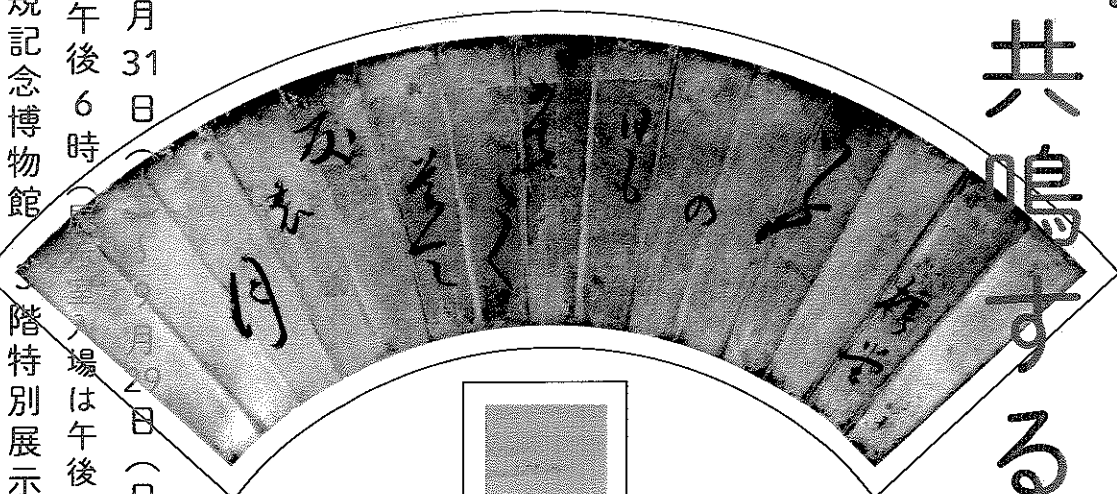


樗堂と一茶、そして子規へ

「共鳴する俳諧精神」



会 場 松山市立子規記念博物館
 開館時間 午前9時～午後6時
 休館日 9月2日(月)・9日(月)・24日(火)
 観覧料 個人400円 団体320円 小中高校生無料

特典／常設展とセットで特別企画展の観覧券を購入する場合、特別企画展の観覧料は2割引・
 子規博友の会員が特別企画展の観覧券を購入する場合、特別企画展の観覧料は2割引
 記念講演
 演題 「一茶の西国行脚」
 講師 宮坂静生氏(現代俳句協会会長)
 日時 9月15日(日) 10時30分～12時
 場所 松山市立子規記念博物館1階視聴覚室
 ※入場無料、定員約100名

樗堂と一茶、そして子規へー共鳴する俳諧精神ー

栗田樗堂は、近世松山城下の町人で、天明期から文化期にかけて活躍し、全国的にその名を知られた俳人でした。若くして俳諧に興味を持った樗堂は、町方役人としての多忙な毎日の一方で、芭蕉を敬慕し、俳諧一筋の生き方に徹しようとしています。人間味にあふれ風月に寄り添うような樗堂の句は当時から人々に愛され、彼のもとには多くの人が集い、ともに句作しました。

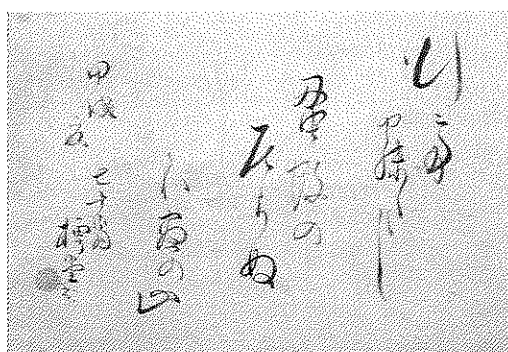
若き俳人、小林一茶もその一人でした。一茶は寛政七（一七九五）年と八年、二度にわたってここ松山を訪れ、樗堂のもとに滞在します。一茶は樗堂の人柄と松山の風土に強く惹かれ、句作に没頭しました。のち一茶は江戸時代を代表する俳人の一人となりますが、樗堂との友情は終生変わることなく続きました。一茶は小さなものに同情や共感を寄せる独自の句境を拓きました。そこには樗堂の作風と共通する部分もあり、二人の精神面でのつながりをうかがわせます。

また子規も、樗堂や一茶の句から大いに学び、樗堂を「四国第一」の俳人と評価し、一茶の作風を「滑稽、諷刺、慈愛」と評しました。樗堂や一茶らの俳諧精神は、時代を超えて子規らの明治の新俳句にも影響を与えました。

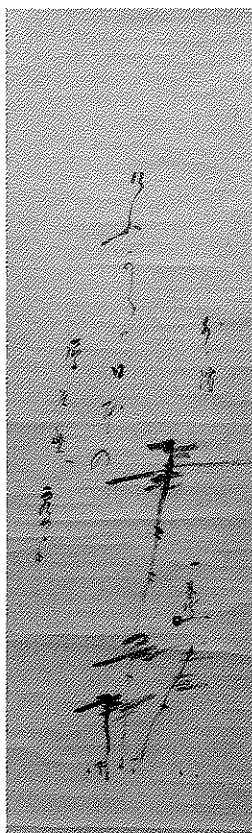
本年はちょうど樗堂の没後二〇〇年目にあたり、また一茶の生誕二五〇周年にあたります。そこで今回の特別企画展では、江戸期の松山を代表する俳人である樗堂の人柄や作品、また一茶との交友などについて紹介し、さらに明治時代を生きた子規が、彼らの足跡から何を学んだのかを探ります。



「一茶発句集」（東京大学総合図書館所蔵）



樗堂句「行て寝たし蚊蚊の居らぬ不尽の山」



一茶句「けふから八日本の雁を築二築と」（今治市河野美術館所蔵）

観覧料：個人400円 団体320円 小中高校生 無料

*特典/常設展とセットで特別企画展の観覧券を購入する場合、特別企画展の観覧料は2割引・子規博友の会会員が特別企画展の観覧券を購入する場合、特別企画展の観覧料は2割引

記念講演

演題：「一茶の西国行脚」

講師：宮坂静生氏（現代俳句協会会長）

9月15日（日）10:30～12:00

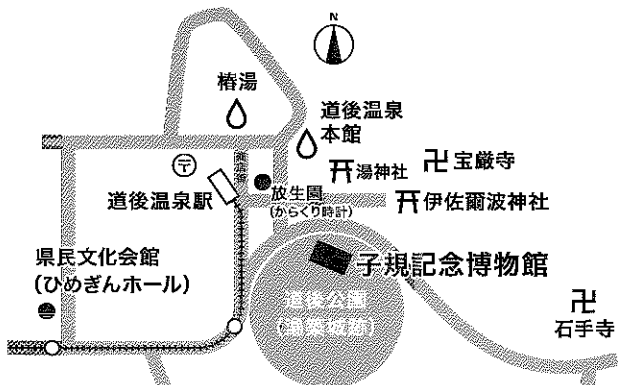
松山市立子規記念博物館1階視聴覚室

※入場無料、定員約100名

学芸員によるギャラリートーク
展示室において、担当学芸員が特別企画展の内容を解説します。

9月7日（土）・21日（土）

*いずれも午後2時から50分程度

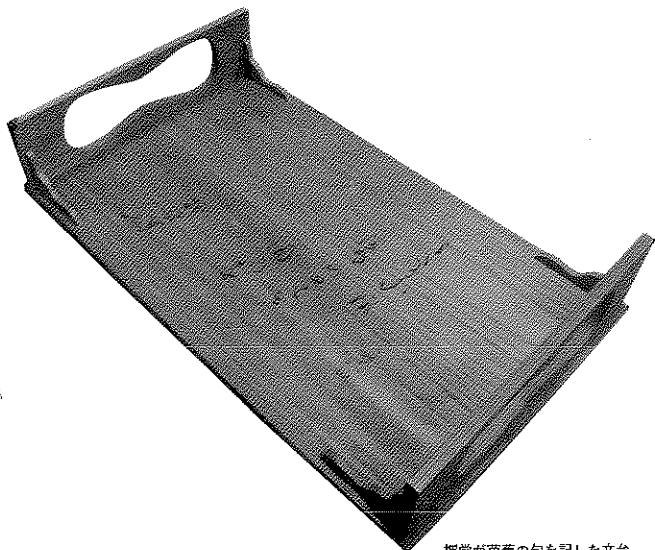


道後温泉駅より徒歩約5分/道後公園駅より徒歩約5分
*公共の交通機関をなるべくご利用ください

松山市立子規記念博物館

TEL 089-931-5566 〒790-0857 松山市道後公園1-30

施設運営・管理/株式会社レスパスコポレーション <http://sikihaku.lesp.co.jp/>



樗堂が芭蕉の句を記した文台